

水戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略（第1次）の検証及び （第2次）骨子（案）について

1 現総合戦略の検証について

総合戦略については、4つの基本目標のもと、17の具体的施策を位置付け、集中的かつ積極的に地方創生に資する各種施策を推進してきたところである。第2次となる総合戦略において、地方創生のさらなる深化、将来の社会的変化を見据えた新たな展開を図るため、これまでの取組を検証するものである。

本検証に当たっては、基本目標に掲げる7項目の数値目標、具体的施策に掲げる35項目の重要業績評価指標（KPI）について、進捗状況の確認をもって行うものとする。

（別紙資料③「数値目標及び重要業績評価指標（KPI）の進捗状況について」参照）

（1）基本目標Ⅰ 生き生きと働けるしごとを創る

ア 数値目標

市内事業所数については、5年毎の統計調査であるため、実績値が確認できていないことから、第2次の策定に当たっては、目標設定を検討する必要がある。また、市民所得については、2016年実績値を見ると（遡及改定後で比較）、基準値より増加している。

イ KPI

期待値に達した項目（達成度A 地方創生に非常に効果があった）は前年度より増加しており、事業の進捗が図られている。具体的には、商店街活性化、インバウンドを含む観光産業の振興、新規創業の支援や企業立地の促進などの取組を進めたことにより、「新たなしごと」の創出に寄与していると評価する。

（2）基本目標Ⅱ 新たなひとの流れを生み出す

ア 数値目標

社会増（人口動態）については、これまで転入超過であったが、2018年実績値において、転出超過となった。また、観光交流人口の2018年実績値は、基準値より増加している。

イ KPI

期待値に達した項目は前年度より減少しているものの、各施設における観光客数、来園者数は増加傾向にあることから、事業の進捗が図られている。具体的には、コンベンション誘致活動、偕楽園、弘道館等における魅力づくりなどの取組を進めたことにより、「新たなひとの流れ」の創出に寄与していると評価する。

（3）基本目標Ⅲ 水戸の未来をリードする若い世代の夢や希望を応援する

ア 数値目標

合計特殊出生率の2017年実績値は、目標値を上回っている。また、保育所待機児童数については、2017年度において目標達成とならなかったものの、年々改善が図られている。

イ KPI

期待値に達した項目は前年度より増加しており、事業の進捗が図られている。具体的には、UIJターンの促進、多様な子育て支援、ワーク・ライフ・バランスの推進などの取組を進めたことにより、若い世代が働き、子育てしやすい環境づくりに寄与していると評価する。また、期待値に達していない項目（達成度D 地方創生にあまり効果がみられなかった）も前年度より増加しているところである。

(4) 基本目標Ⅳ 安全で安心、誰もが快適に暮らせるまちを創る

ア 数値目標

生活環境の満足度については、現在実施している市民アンケート調査の分析結果をもって判断することから、第2次の策定に当たっては、目標設定を検討する必要がある。

イ KPI

期待値に達した項目は前年度より増加しており、事業の進捗が図られている。具体的には、まちなか公共交通の利用促進、医療・福祉分野における人材の確保、市民協働による地域防災の推進などの取組を進めたことにより、市民が安全で安心して暮らせる「まち」の創出に寄与していると評価する。また、期待値に達していない項目（達成度D）も前年度より増加しているところである。

(5) 水戸のまち創生リーディングプログラム

水戸のまち創生リーディングプログラムについて、計画の最終年度（2019年度）の目標達成に向けた2018年度の進捗状況をまとめると以下のとおりである。

(各年10月1日現在)

項目	参考 (2014年度)	実績値 (2018年度)	目標値 (2019年度)	備考
20～39歳の人口 (生産年齢人口の概 ね前半世代)	62,839人	57,227人	60,000人	【社人研推計値 約57,000人】

雇用の創出をはじめ、就業や自主的な起業に向けた支援などに重点的に取り組んだものの、20から39歳までの人口の減少幅は社人研推計値に近い状況となっている。

引き続き、若い世代が働くことができる場、活動することができる場の創出に向け、事業者との連携のもと、各種施策のさらなる充実や本市への移住・定住に資する効果的な情報発信等に取り組む必要がある。

(6) 総括的な評価

この4年間において、総合戦略における具体的事業については、延べ263事業を実施したところであり、全体として、約7割の事業において進捗が図られている。期待値に達した項目（達成度A）は約4割となっていることから、さらなる事業の推進を図る必要がある。

数値目標、KPIの設定については、各年度における進捗状況の確認、最終年度における効果の十分な検証ができるよう、見直しを行う必要がある。

また、進捗が図られている事業については、引き続き確実に推進し、より高い効果を目指すとともに、進捗に課題等がみられるものについては、事業内容の充実等を行いながら、地方創生の取組を継続することとする。

2 総合戦略（第2次）骨子について

(1) 基本的な考え方

総合戦略（第2次）については、現総合戦略の検証において、これまでの取組を継続するとしたことから、従来の枠組みを引き続き維持することを基本とする。また、国が示す「基本目標」のほか、「地方への資金の流れ（関係人口の創出）」、「新しい時代の流れ（SDGs, Society5.0※）」、「民間との協働」、「地域経営」などの新たな視点（6ページ参考を参照）を踏まえ、地方創生のより一層の充実・強化を図ることとする。

そして、地域資源を生かした「しごと」起点のアプローチと合わせて、「ひと」起点、「まち」起点という多様なアプローチを柔軟に行うことにより、「まち」「ひと」「しごと」の好循環を確立することを目指し、「しごとの創生」、「ひとの創生」、「まちの創生」の3つの視点に重点を置いた計画とする。

特に、まちの発展をリードする「若い世代」が、生き生きと働き、活動し、様々な分野で活躍することができる環境づくりに集中的に取り組むこととする。

※SDGs（Sustainable Development Goals）：

持続可能な開発目標。国連が掲げる2030年までに達成すべき世界共通の目標。

Society5.0：

情報社会（Society 4.0）に続く新たな社会。「IoT（Internet of Things）で全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、今までにない新たな価値を生み出すことで、課題や困難を克服する。

(2) 重点を置く3つの視点

①しごとの創生

本市における重点課題である戦略的観光をはじめ、商業、農業、工業、さらには、新たな産業など、あらゆる分野の産業について、地域の資源や特性を生かした振興、持続的な発展を推進するとともに、幅広い分野における企業や事業所の誘致に取り組みながら、「若い世代」が多様に働くことができる雇用の創出を図る。

②ひとの創生

本市に住んでみたいと思われる、選ばれる居住環境の整備とともに、大学等と連携しながら、地域の活性化を担う人材の育成やしごとの創生に取り組み、「若い世代」の定住化を図る。また、子どもを安心して生み、健やかに育てやすい環境の整備とともに、将来の水戸を創造し、リードしていくことのできる人材育成の視点に立った水戸らしい教育の充実を図り、「若い世代」が希望をかなえられるまちづくりを推進する。さらに、「若い世代」が、しごとをはじめとする、様々な活動に取り組みやすい環境づくりを進める。

③まちの創生

しごとの創生、ひとの創生を支える基盤づくりとして、人口減少社会に対応できる本市の地域特性を踏まえたコンパクトシティの実現に向け、都市中枢機能の集積や交通ネットワークを構築し、まちの活性化を図る。また、市民との協働のもと、福祉・医療の充実、地域の防災力の向上を図り、誰もが安全・安心に暮らし、活躍することができるまちづくりを推進する。

あわせて、県都として、水戸都市圏のリーダーとして、広域的な経済・生活圏の活性化をリードする。

(3) 基本目標及び数値目標

基本目標については、現総合戦略を基本として、有識者会議の意見等を踏まえ、数値目標や施策の概要との関連性が分かるように見直し、以下の4つを定めることとする。

基本目標ごとに、各年度における進捗状況や最終年度における効果を客観的に検証することができるよう、達成すべき数値目標を設定する。

①基本目標Ⅰ 生き生きと働けるしごとを創る（継続）

ア 数値目標【見直し】

- ・市民所得（茨城県市町村民経済計算）※伸び率に改める
- ・民営事業所における従業者数（経済センサス-基礎調査・活動調査）
- ・ハローワーク水戸管内における有効求人倍率（職業安定業務統計）

イ 施策の概要

企業の経営力、産業競争力の強化、観光産業の振興等によって、地域経済の活性化を図るとともに、市内企業への就労を促進しながら、「若い世代」が生き生きと働くことができる多様な雇用の場を創る。

②基本目標Ⅱ 新たなひとの流れを生み出す（継続）

ア 数値目標【見直し】

- ・観光交流人口（県観光客動態調査）
- ・水戸駅，赤塚駅，内原駅におけるJR乗客数（JR東日本水戸支社）

イ 施策の概要

芸術文化・スポーツ文化の交流によるにぎわいづくり，地域資源を生かした魅力ある交流拠点の形成，関係人口の創出に向けた取組等によって，ひとの流れを新たに生み出す。

③基本目標Ⅲ 若い世代の結婚・出産・子育てを応援する（見直し）

ア 数値目標【見直し】

- ・合計特殊出生率（水戸市）
- ・保育所待機児童数（水戸市）
- ・放課後開放学級待機児童数（水戸市）

イ 施策の概要

子育て支援のさらなる充実，未来をリードする子どもたちの教育，若者の育成，女性活躍の推進等の取組によって，「若い世代」が結婚し，安心して出産・子育てができる環境を創る。

④基本目標Ⅳ 安全で安心，誰もが快適に暮らせる，個性輝くまちを創る（見直し）

Ⅳ－１ 誰もが快適に暮らせるまちを創る

ア 数値目標【見直し】

- ・社会増（人口動態）（県常住人口調査）

イ 施策の概要

都市核（中心市街地）の強化，地域生活拠点の充実，交通ネットワークの形成，居心地が良く歩きたくなる環境の整備によって，コンパクトな都市づくりを推進するとともに，「若い世代」の定住，移住の促進に努めながら，誰もが快適に暮らせるまちを創る。

Ⅳ－２ 誰もが安全・安心に暮らし，個性輝く活躍できるまちを創る

ア 数値目標【見直し】

- ・犯罪認知件数（水戸警察署）
- ・空家等件数（水戸市） ※年間減少数
- ・要介護等認定を要しない高齢者数（水戸市）

イ 施策の概要

地域における防災・防犯活動の充実や空き家対策等に取り組むとともに，住み慣れた地域で暮らし続けられる環境づくりを進めるほか，市民，事業者等の多様な主体の活動を支援しながら，誰もが安全・安心に暮らし，活躍できるまちを創る。

(4) 重要業績評価指標 (KPI)

基本目標の実現を目指し、具体的施策を定め、その効果を検証できるKPIを設定する。

KPIについては、具体的施策の各年度における進捗状況を客観的に検証することができるよう、以下の点を踏まえ、必要な見直しを行いながら、設定する。

- ・基本目標や具体的施策との関連性が説明できる指標とする。
- ・原則としてアウトカム指標とする。
- ・達成可能性などを考慮し、現実的な数値を設定する。

(5) 計画の期間

本戦略は、2024（令和6）年度を目標年度とし、計画期間は、2020（令和2）年度から2024（令和6）年度までの5か年とする。

【参考】

国のまち・ひと・しごと創生基本方針（令和元年6月21日閣議決定）

【政策の基本目標（4つの基本目標）】 従来の枠組みを維持しつつ、必要な強化

基本目標1 地方にしごとをつくり、安心して働けるようにする、
これを支える人材を育て活かす

基本目標2 地方への新しいひとの流れをつくる

基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる、
誰もが活躍できる地域社会をつくる

基本目標4 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を
連携する

「第2期における新たな視点」

- (1) 地方へのひと・資金の流れを強化する（関係人口の創出、地方への寄附・投資）
- (2) 新しい時代の流れを力にする（Society 5.0, SDGs）
- (3) 人材を育て活かす（地方創生の基盤をなす人材の掘り起こしや育成、活躍の強化）
- (4) 民間と協働する（NPO等の地域づくりを担う組織や企業との連携）
- (5) 誰もが活躍できる地域社会をつくる（女性、高齢者、障害者、外国人等）
- (6) 地域経営の視点で取り組む（新設からストック活用、マネジメント強化へ転換）